



上川井だより

令和5年1月10日
横浜市立上川井小学校
校長 山崎 真紀子

1月号

命あるものから学ぶ

新春の澄んだ空に富士の高嶺が映え、清々しい日が続いております。保護者の皆様、地域の皆様、謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃より、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。今年も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年はウサギ年ですが、本校でも一羽のウサギを飼育しています。保護者の皆様のご協力で冬休み中も健やかに過ごすことができます。ありがとうございます。

ウサギは、おとなしくて静かな印象が強い動物でしたが、飼ってみると思いのほか表情豊かで、気の強いところがあります。頭を摺り寄せて甘えてきたり、気にいらなときは、後ろ足で床を強く蹴って抗議したりします。うれしいときは、高くジャンプして体全体で表現します。声帯をもたないため鳴くことはありませんが、鼻をブーブーと鳴らすことや、プウプウと甘え声のような音を出すこともあります。実際に飼ってみて、意外なことの連続でした。こちらの思い通りにならない経験をしたり、相手の気持ちを推し量る大切さを教えてくれたりします。また、撫でたときの温かいぬくもりから安心感を得られることもあります。身近に動物と触れ合うことができる環境は心の成長にとって意義深いものだと感じます。

デジタルでの買い物、手続き、表現が日常となり、学校での学びにもデジタル機器が欠かせない時代となりました。便利な一方で人と人とのつながりが希薄になり、小さな諍いが大きなトラブルに発展しがちですし、情報に触れるだけの学びには限界があると感じています。命あるものと触れ合う学びにまさるものはありません。

学校では、できるだけ植物を育てたり、動物や自然と触れ合ったりする機会を設け、体験を通して子どもたちが心豊かに成長できるよう心掛けています。自分の植えた球根が芽吹いたかどうか毎日見に行く子、収穫した野菜の大きさを誇らしげに報告する姿、雨の日にもウサギを気にかけて世話をしに行く飼育委員、そうした姿を大切にしていきたいと思えます。

2023年の干支は癸卯です。「癸」は、十干の最後にあたり、一つの物事が収まり、次へ移る時期と考えられています。「卯」のウサギは、茂という時期にあたるため、「癸卯」は、これまでの出来事に区切りが付き、次へと向かっていく、成長や増殖といった明るい意味があるそうです。また、ウサギの跳躍する姿から、「飛躍」「向上」を象徴しているとも言われています。いずれにしても、新しいことに挑戦し、成長することができるよい年になりそうです。教職員一同、より充実した楽しい学校をめざして努力を続けたいと思えます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

